

地理歴史科「日本史B」シラバス	単位数	4単位
	学科・学年・学級	3学年(選択必修)

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>1 日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させる。</p> <p>2 日本の文化と伝統の特色についての認識を深めさせる。</p> <p>3 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。</p>
使用教科書・副教材等	<p>使用教科書:7実教 312日本史B新訂版(実教出版)</p> <p>副教材:最新日本史図表(第一学習社) 日本史B新訂版演習ノート 教科書完全準拠(実教出版)</p>
評価の観点	<p>(1)関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本史の展開に対する課題について感心を強めているか。</li> <li>意欲的に課題を追求する態度や客観的に考察しようという態度を身につけているか。</li> <li>国際社会の一員として、主体的に行動し責任を果たそうと考えているか。</li> </ul> <p>(2)思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本疎に関する課題を自ら見出し、それを総合的な観点から考察しているか。</li> <li>国際的な社会の変化を考慮に入れ、その課題を客観的に判断しているか。</li> <li>追求した過程や結果を、様々な方法を用い適切かつ論理的に表現できるか。</li> </ul> <p>(3)資料活用の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや表、図版、地図などの資料を読み取り、それを基に思考を展開することができているか。</li> </ul> <p>(4)知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本史の基本的な事柄を、世界史的な視野に基づき理解し身につけているか。</li> </ul>

### 2 学習計画及び評価方法等

#### (1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい・目標	備考 学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との関連など	調査範囲
第1学期	歴史と資料	4	日本史学習に対する関心を高めるとともに、歴史学習の基本的な認識を深める。「資料を読み解く」というテーマで、図像史料「伴大納言絵巻」を活用する。図像から読みとれる内容に着目して、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解させる。文化遺産についての関心を高め、文化財保護の重要性を理解させる。	「歴史と資料」は、年度初めの授業で取り扱うか、総合的な学習の時間と関連させたり、長期休暇を利用したりして学習する。	第1学期中間調査予定範囲
	第1章 日本文化のあけぼの		<p>1 旧石器時代と縄文時代の人々の生活や社会、文化が、発掘調査の成果によって明らかにされてきたことや、考古学の方法について理解させる。</p> <p>2 日本の旧石器時代の遺跡は約3万年前にはじまる後期旧石器時代に属することや、その時代の遺物、遺構から当時の人々の生活や社会、文化について理解させる。</p> <p>3 地質学でいう完新世になるころ、土器を伴う新たな文化がはじまったことや、縄文土器や磨製石器などの遺物、堅穴住居、貝塚などの遺構から縄文時代の人々の生活と社会、文化について理解させる。また土偶の製作や屈葬などの呪術的風習から、自然とたたかうとともに自然の恩恵を受けてきた縄文時代の人々の精神生活について考察させる。</p>	第1章は、世界史B、人類の誕生と文化の発展の学習内容と関連させて学習する。	
	第2章 水稲農業の開始と社会生活の進展		<p>1 水稲農業の発達と弥生文化の形成、身分の分化や階級の成立にみられる社会の変化について理解させる。</p> <p>2 弥生時代に小国や地域的な連合から邪馬台国が形成された過程を、中国の歴史書の記載内容や考古学の発掘成果を用いて理解させる。</p> <p>3 ヤマト政権が西日本を中心とした各地の首長の連合体として形成され、統一国家に向かっていったこと、その政権の特質について理解させる。</p> <p>4 古墳の出現と各地への広がり、その規模や副葬品に着目し、ヤマト政権の支配や大陸文化の影響について理解させる。</p>	第2章は、世界史B、東アジアの動向と関連させて学習する。	

<p>第3章 東アジア文化の影響と律令制度の成立</p>	<p>5</p>	<p>1. ヤマト政権の国内統一、律令体制の成立から奈良時代に至る政治の動向、および律令に基づく土地と人々に対する統治の体制が整備されてきたことを理解させる。</p> <p>2. 東アジア世界との関係と、古墳時代の大陸文化の伝来や、その後の遣隋使・遣唐使などによってもたらされた文物・制度の影響に着目させ、天平文化などの文化の特色について考察させる。</p> <p>3. 儒教・仏教や諸制度の摂取、国家による仏教の興隆、造寺・造仏や歴史書・地誌の編纂や国家事業が進められたことなどに着目させ、文化が古代国家の展開と深くかかわりあっていたことを理解させる。</p> <p>4. 古事記・日本書紀・風土記・万葉集などの記載や諸資料から、古代人のものの考え方や、背景としての生活について考察させる。</p>	<p>第3章は、世界史B、東アジアの動向と関連させて学習する。仏教の受容過程は、現代社会や倫理とも関連させて学習する。</p>	
<p>第4章 摂関政治と国風文化</p>		<p>1. 平安遷都、律令政治の再編成とゆきづまり、地方における支配体制の動揺などから、藤原氏の台頭と摂関政治の展開などを理解させる。</p> <p>2. 遣唐使の停止や地方の動向に着目させ、従来大陸文化を消化して新しい貴族文化が進展していったことを理解させる。</p>	<p>第4章は、世界史B、東アジアの学習内容と関連させて学習する。</p>	
<p>第5章 中世社会の成立と文化の新機運</p>	<p>6</p>	<p>1. 公領の変質や荘園の拡大と武士の台頭などに着目させ、荘園公領制の形成と院政の展開、さらに平氏政権の成立などを理解させる。文化の面で武士や庶民の生活が反映されたことに着目させ、古代社会の変化の中に中世社会の萌芽が見られたことを理解させる。</p> <p>2. 平安時代の末期には都の貴族文化が地方に普及するとともに、説話集や絵巻物に庶民の姿が見え始めたことを理解させる。</p> <p>3. 公家政権との抗争の中から、鎌倉幕府が独自の武家政権を創出させていったことを理解させる。</p> <p>4. 承久の乱を経て公武二元政権から武家単独政権となり、執権政治が確立・進展・変質していったことをとらえさせる。</p> <p>5. 鎌倉武士の生活と、荘園経済の発達および地頭による荘園侵略の経過を明らかにする。</p> <p>6. 貨幣経済の進展や、元寇を契機とした御家人制度の崩壊が進み、悪党らの反社会的な行動も隆盛化して、鎌倉幕府が滅亡していったことを理解させる。</p> <p>7. 公家文化と武家文化とを対比させながら、鎌倉仏教の学習を通じて鎌倉文化の特質を考えさせる。</p>	<p>第5章は、世界史B、東アジアの学習内容と関連させて学習する。</p>	<p>第1学期期末 考査予定 範囲</p>
<p>第6章 武家社会の展開と室町文化</p>	<p>7</p>	<p>1. 日本の諸地域の動向に着目させ、交通の発達などによって流通経済が進展したことを理解させる。その際、アイヌとの交易や琉球の中継貿易、日明貿易が日本の貨幣流通に大きな影響を与えたことなど東アジア世界との交流にも留意する。</p> <p>2. 諸産業の発達などを背景に庶民が台頭したこと、応仁の乱後の下剋上の風潮を背景に戦国大名が各地に登場し、領国の経済発展と軍力強化をはかったことを多面的に考察させ理解させる。</p> <p>3. 武家政権の支配の進展や庶民の台頭、東アジア世界との交流に着目させて、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽、地方での文化の普及の様相を理解させる。</p>	<p>第6章は、世界史B、東アジアの学習内容と関連させて学習する。</p>	
<p>歴史の解釈</p>	<p>8</p>	<p>「中世の町の変化を調べる」というテーマで、遠江国見付宿を取り上げる。時代とともに変化する町の様子を様々な史料を活用して調べさせる。</p>	<p>中世の学習が終わった段階で実施するか、総合的な学習の時間と関連させたり、長期休暇を利用したりして学習する。</p>	<p>第2学期</p>

第2学期	第7章 幕藩体制の展開と近世文化	9	<p>1 ヨーロッパ人の来航と外来文化の受容がそれ以後の日本の歴史に果たした役割や意義を考えさせる。</p> <p>2 織田信長・豊臣秀吉の統一過程をとらえさせるとともに、検地や刀狩等を中心に全国的な支配体制を確立する一方で、朝鮮侵略に至る秀吉の対外政策についても明らかにする。</p>	第7章は、世界史B、ヨーロッパ諸国の世界進出と関連させて学習する。キリスト教については、現代社会や倫理の授業と関連させて学習する。	中間 考 査 予 定 範 囲
			<p>3 徳川家康から家光に至る治世に確立した幕藩体制と対外関係を構造的にとらえさせるとともに、大名等の統制のあり方や鎖国制の実態について考えさせる。</p> <p>4 士農工商の身分制度の実態を明らかにするとともに、農村や都市などでの自治支配機構の諸相や近世的な文化の創出についてとらえさせる。</p>		
	第8章 幕藩体制の動揺と文化の成熟	10	<p>1 文治政治的な傾向を強めた幕府政治が展開されるに至った背景をとらえさせるとともに、商品経済の発展が封建制に及ぼした影響を考えさせ、幕政改革の諸相を理解させる。</p>	第8章は、世界史B、東アジア・欧米諸国の学習内容と関連させて学習する。	
	歴史の説明		<p>2 各地の産業の発達と交通網の整備によって、全国的な商品流通経済が確立したことをとらえさせる。</p> <p>3 欧米列強のアジア進出とその対応の変化が幕藩体制や鎖国制に及ぼした影響について考えさせる。</p> <p>4 江戸の中・後期における町人文化の形成とその諸相、学問・思想の新たな展開に注目して、幕藩体制の動揺と近代化へのアプローチについてとらえさせる。</p>		
	第9章 近代への転換		<p>「近世の結婚と離縁を調べる」というテーマで、おもに離縁の実態について調べさせる。通説的な歴史解釈だけでなく、別の解釈が可能であることを理解させる。</p>	近世の学習が終わった段階で実施するか、総合的な学習の時間と関連させたり、長期休暇を利用したりして学習する。	
		<p>1. 日本開国の世界史的背景に留意しながら、開国の衝撃を契機として幕末の政治的激動が進行した過程を理解させる。</p> <p>2. 倒幕派の形成から幕府の滅亡にいたる政治過程と、明治新政府による中央主権体制の確立過程について理解させる。</p> <p>3. 藩閥専制政府のもとで実行された一連の近代化政策の意義を、その問題点とあわせて考察させる。</p> <p>4. 初期の対外関係の諸相について理解させるとともに、新政府の政策が生み出した様々な国内問題についても理解させる。</p> <p>5. 近代文化の草創期の特質を理解させる。</p>	第9章は、世界史B、東アジア・欧米諸国の学習内容と関連させて学習する。また、政治経済の学習内容とも関連させて学習する。		
第10章 近代国家の形成	11	<p>1. 立憲政をめぐる自由民権運動と藩閥政府との対抗関係の歴史を考察し、成立した明治憲法体制の特質を理解させる。</p> <p>2. 日清・日露の両戦争を世界史的背景をもとに理解し、この間に進行した政治構造の変化について考察させる。</p> <p>3. 日清・日露の両戦争をへて日本がどのような国際的立場を獲得したのか、その問題点とともに考えさせる。</p> <p>4. 本格的な資本主義経済が成立したことを様々な分野について理解すると同時に、経済と社会の変化がどのような社会的問題を生み出したかについても理解させる。</p>	第10章は、世界史B、東アジア・欧米諸国の学習内容および、政治経済の学習内容とも関連させて学習する。	第2 学 期 期 末 考 査 予 定 範 囲	

第3学期			5. 欧米文化の模倣と導入からはじまった日本の近代文化がどのように展開したのか、様々な分野について考察させる。	
	第11章 両大戦間の日本と市民文化		1. 第一次世界大戦の原因と経過、その世界史的意義をとらえ、日本が大戦にどのように対応したのか、また、大戦が日本経済に及ぼした影響について考えさせる。 2. 第一次世界大戦が日本の社会に及ぼした変化を明らかにし、また、戦間期の世界の構造の特質について理解させる。 3. 第1次護憲運動から第2次護憲運動にいたる政党政治の成立過程を理解すると同時に、政党内閣の内外の課題への対応がどのような特質を有していたか考えさせる。 4. 都市化と中産階級の成長を背景に誕生した大正・昭和初期の市民文化の独自性について、具体的事例に即しながら理解を深める。	第11章は、世界史B、第1次世界大戦の学習内容および、政治経済の学習内容とも関連させて学習する。
	第12章 十五年戦争と日本	12	1. 満州事変が日本の国際的孤立をまねいたと同時に、政党政治が終焉し軍国主義への道に進む契機となったことを理解させる。 2. 軍国主義化が進展する中で日中戦争が勃発し、戦争の長期化が軍国主義のもとで総動員体制を進行させたことと枢軸体制の形成に向かわせたことについて理解を深める。 3. アジア・太平洋戦争の開戦にいたる経緯を当時の国際情勢とあわせて理解するとともに、アジア・太平洋戦争の現実について考えさせる。 4. 戦時下の国民生活の実態について具体的な理解を深める。	第12章は、世界史B、第2次世界大戦の学習内容と関連させて学習する。
	第13章 現代の日本と新しい文化	1	1. 非軍事化と民主化を要とする占領政策が戦後日本の政治・社会・経済の基礎を築いたこと、国民が積極的に受け入れることによって戦後改革が実現したことを理解させる。 2. 冷戦構造の深まりが占領政策を転換させ、サンフランシスコ講和と安保条約によって現在までおよぶ戦後日本の対外関係の基軸が成立したことを理解させる。 3. 高度経済成長をとげる過程で日本社会が大きく変貌したこと、また、アメリカのアジア政策に協力することによって日本は国際的地位を高めたことについて理解させる。 4. 高度経済成長の終わりとともに、経済摩擦などの新たな課題が生まれ、55年体制の崩壊にいたる政治構造の変化が生じたことを考察させる。 5. 冷戦構造の崩壊による流動的な世界情勢が生まれる中で、21世紀の日本が直面している多くの課題があることについて理解を深める。	第13章は、世界史B、戦後史の学習内容および、政治経済の国際連合などの学習内容とも関連させて学習する。
	歴史の探求		テーマ学習。自らテーマを決め、さまざまな資料などにふれながら、課題解決をすすめ、歴史的思考力を培う。	日本史Bの学習がすべて終わった段階で実施する。

第3学期期末考査予定範囲

年間授業時数 120時間

(2) 評価方法・その他

・定期試験・小テストでは、おもに知識・理解の評価をはかり、授業における活動や例示した課題などで、関心・意欲、思考・判断、資料活用などの技術の評価を行う。